

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

^A古代地中海世界の文明の成熟点といえる古代ローマは、^B古代ギリシアや^Cエトルリアの影響を色濃く残しながらも、土木・建築技術における改良を行い比類なき建造物の数々を残した。アーチやヴォールトといった曲線構造やローマンコンクリートは建造物の大規模化を促し、充実した機能をもつ都市が建設された。

D = ロマーノとその周辺は古代ローマ市民の都市生活の中心地であり、^E共和政期から帝政期にかけて元老院や神殿をはじめとする多くの建造物や公共施設が^Fつくられた。^Fアウグストゥスのものとして伝えられる「私はローマを煉瓦の町として引き継ぎ、大理石の都として残すのだ」という言葉に象徴されるように、^Gイタリア半島内のカッラーラから供給されるようになった大理石などで壮麗な装飾が施された建築物もみられた。ネロ帝による革新的な宮殿ドムス=アウレアやウェスパシアヌス帝が建設を始めた^Hコロッセウムはいずれも曲線構造やローマンコンクリートを駆使したものであり、**D** = ロマーノの北西に位置する^Hパンテオンのドーム状の天蓋はローマンコンクリートの真骨頂とされる。土木・建築技術は^J水道施設や公共浴場などの建設にも活かされ、都市機能の向上に寄与した。また、ローマは支配地の拡大に伴い各地に植民都市を建設した。^K北アフリカや^L西アジアに及ぶ広範な範囲に残る遺跡からは、培われた技術が各地の建設資材や気候風土に柔軟に適用されたことがうかがわれる。こうした建造物は、娯楽や都市機能を提供しただけでなく軍事戦略的にも不可欠であり、帝国を維持拡大するうえで重要な役割を果たした。

問A 下線部Aに関して、古代地中海世界の文明に関する記述として適切なものを選べ。

1. エヴァンズにより発見された線文字Aは未解読である。
2. カルタゴはアフリカ北岸に位置したシドンの植民者により建設された。
3. フェニキア人はエーゲ文明が栄える前に地中海貿易を独占していた。
4. アメリカのヴェントリスはクレタ文明で用いられた線文字Bを解読した。

問B 下線部Bに関して、古代ギリシアに関する記述として適切なものを選べ。

1. 前6世紀のアテネにおけるソロンの改革では、債務奴隷の禁止や鎖国政策が行われた。
2. 前7世紀のアテネにおいてドラコンにより慣習法が成文化された。
3. アテネでは5000票以上投票があったとき最多得票者が生涯追放される陶片追放が行われた。
4. スパルタでは、奴隷身分の農民となった被征服民はペリオイコイと呼ばれた。

問C 下線部Cに関して、エトルリア人についての記述として誤っているものを選べ。

1. 複数の都市国家を建設し、分立していた。
2. シチリアを拠点として活動した。
3. エトルリア系の王がローマを治めたことがある。
4. ギリシア人との交易などで栄えた。

問D **D** にあてはまる言葉を選べ。

1. フォロ
2. アゴラ
3. ノモス
4. アクロポリス

問E 下線部Eに関して、古代ローマの共和政についての記述として適切なものを選べ。

1. 前4世紀のリキニウス・セクスティウス法により、コンスルは全員平民から選ばれるようになった。
2. 前5世紀前半、平民出身のコンスルが設けられ、元老院の決定に対する拒否権が与えられた。
3. 前3世紀、独裁官ホルテンシウスのもとで、平民会の決議が元老院の承認なく国法となることが定められた。
4. 前5世紀初めに慣習法を成文化した十二表法が制定され、貴族の権利義務が大理石に刻まれ公開された。

問F 下線部Fに関して、アウグストゥス（オクタウィアヌス）についての記述として適切なものを選び。

1. アウグストゥスは護民官や終身独裁官を兼任し主要な政治権力を手中に収めたため、帝政を始めたと言われる。
2. アウグストゥスは共和政を尊重することを示すためプリンケプスと自称した。この政治体制は元首政とよばれる。
3. アクティウムの海戦に臨むにあたり、元老院はオクタウィアヌスにアウグストゥスの称号を与えた。
4. オクタウィアヌスは、アントニウス、クラッススとともに第2回三頭政治を行った。

問G 下線部Gに関して、イタリア半島内の都市でないものを選び。

1. メッシナ
2. タレントゥム（タラント）
3. ポンペイ
4. カプア

問H 下線部Hコロッセウムは80年に完成した。同時代の人物と著作の組み合わせとして、適切なものをえらべ。

1. ホラティウス『叙情詩集』
2. キケロ『国家論』
3. プルタルコス『対比列伝』
4. オウィディウス『ローマ建国史』

問I 下線部Iに関して、ローマ市内に現存するパンテオンは125～135年頃完成したと言われる。このときの皇帝の名を選び。

1. テオドシウス
2. ハドリアヌス
3. アントニヌス=ピウス
4. トラヤヌス

問J 下線部Jに関して、古代ローマ時代に建設された施設などについての記述として誤っているものを選び。

1. アップシア街道はローマからアドリア海沿岸のブルンディシウムを結んだ。
2. ガール水道橋は南フランスに残る石造りの水道橋である。
3. ローマ市内のコロッセウム横のコンスタンティヌス帝の凱旋門は、彼がローマ帝国全体の単独皇帝となったことを記念してつくられた。
4. カラカラ帝によりローマ市内につくられた公共浴場は運動場を含む複合施設であった。

問K 下線部Kに関して、スキピオがハンニバルに勝利した前202年の戦いはどれか。

1. カンネーの戦い
2. イプソスの戦い
3. カルラエの戦い
4. ザマの戦い

問L 下線部Lに関して、古代ローマ時代の西アジアでの出来事の記述として適切なものを選び。

1. ユダヤ属州とパルティアの間で行われた第1次ユダヤ戦争後、律法を重視するパリサイ派がユダヤ教の主流となった。
2. ナザレで生まれエルサレムで成長したと伝えられるイエスは、パリサイ派を形式的であるとして批判した。
3. 前1世紀にアルサケスが建国したパルティアは2世紀まで存続したが、ササン朝に敗れた。
4. 前1世紀にポンペイウスはセレウコス朝シリアを滅亡させ、シリアをローマの属州とした。

II 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

4世紀から5世紀にかけてユーラシアの東西において遊牧民の大規模な移動が発生した。東アジアにおいては北方民族が華北に進出し、その一つである匈奴は、中国を統一していた晋（西晋）の都洛陽を陥落させた。西晋滅亡後の華北においては遊牧諸民族が興亡を繰り返していたが、5世紀前半に北魏が華北を統一した。一方、江南では晋の王族が皇帝に即位し、晋（東晋）を復興した。その後、宋・齊・梁・陳の各王朝が短期間に交替した。このように華北と江南で王朝が対立する南北朝時代が1世紀以上続いた。

中国王朝の分裂状態は、周辺地域の諸民族の自立をより一層うながした。朝鮮半島では高句麗、百濟、新羅の三国が隆盛し、各々争った。中国東北部に勃興した高句麗は、4世紀後半から南下して朝鮮半島北部を支配し、5世紀には平壤に都を移転した。その後、朝鮮半島中部の漢城に都を置いた百濟と抗争を繰り返す。百濟は、南朝に朝貢使節を送り、とりわけ梁の仏教文化から強い影響を受けた。6世紀になると、朝鮮半島東南部にある金城を都とした新羅が発展する。7世紀に建国された中国の唐から積極的にその文化や制度を導入した新羅は、唐の軍事的援助も得て百濟と高句麗を滅ぼして朝鮮半島の大部分を支配した。

問A 下線部Aについて、一般に五胡に含まれないとされるものを一つ選べ。

1. 氐 2. 烏孫 3. 鮮卑 4. 羯

問B 下線部Bに関して、紀元前1世紀に前漢の武帝による討伐で衰退したとされるが、その武帝によって征服された勢力として適切なものを一つ選べ。

1. 南越 2. 烏桓 3. 大理 4. 大月氏

問C 下線部Cについて、この地の南郊に造営された石窟寺院を一つ選べ。

1. 敦煌 2. 雲崗 3. 天竜山 4. 竜門

問D 下線部Dについて、この地域に東晋および歴代南朝は都をおくが、その都の当時の名称として適切なものを一つ選べ。

1. 建康 2. 南京 3. 建州 4. 建安

問E 下線部Eについて、東晋の初代皇帝を一人選べ。

1. 司馬炎 2. 司馬光 3. 司馬遷 4. 司馬睿

問F 下線部Fについて、南朝宋の初代皇帝を一人選べ。

1. 陳霸先 2. 蕭道成 3. 蕭衍 4. 劉裕

問G 下線部Gについて、この地にはかつて朝鮮半島北部を支配する中国王朝の郡が設置されていたが、その郡の名称として適切なものを一つ選べ。

1. 楽浪郡 2. 帶方郡 3. 遼東郡 4. 南海郡

問H 下線部Hについて、14世紀に漢城を都とした王朝が建国されるが、その建国者を一人選べ。

1. 王莽 2. 王建 3. 李成桂 4. 李承晩

問I 下線部Iに関して、インドに赴き仏教を修め、その間の旅行記として『仏国記』を著した僧侶を一人選べ。

1. 仏図澄 2. 法顕 3. 玄奘 4. 鳩摩羅什

問J 下線部Jについて、この地の郊外に8世紀に創建された寺院として適切なものを一つ選べ。

1. 仏国寺
2. 梵魚寺
3. 海印寺
4. 皇竜寺

問K 下線部Kについて、現在のベトナムの北部地域に唐が設置した羈縻政策の拠点として適切なものを一つ選べ。

1. 安東都護府
2. 安西都護府
3. 安南都護府
4. 北庭都護府

問L 下線部Lについて、7世紀末、高句麗の旧領土に渤海が建国されるが、渤海の舞楽と推定され、日本の宮中雅楽に残されている曲として適切なものを一つ選べ。

1. 越殿楽
2. 甘州
3. 蘭陵王
4. 新靺鞨

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ

大きな対立軸を擁しつつ国家の運営を行っていく2大政党制の歴史を紐解いてみると、17世紀後半のイギリス議会^Aでは現在の保守党につながるトーリ（党）と現在の自由民主党につながるホイッグ（党）の間の対立がみられた。

アメリカでも、植民地時代から入植者たちの間に分断がみられ、独立の頃には、合衆国としての運営のあり方を巡って連邦派と反連邦派の間で激しい対立がみられた。合衆国憲法の制定・発効後に初代大統領に就任したワシントン^Bは、政権のバランスをとるべく、連邦派のハミルトン^Cを財務長官に、反連邦派のジェファソンを國務長官に任命した。^D

19世紀に入ってからしばらくは反連邦派の流れを汲む大統領が続いた。1820年代後半にはジャクソンの支持者らによって民主党が結成され、かつ、ジャクソン大統領の時代には H^E が確立されたこともあって、とくに名門の家柄を出自とする官僚たちによる政治支配が蔓延・継続するリスクが取り除かれ、連邦政府に対する政党の影響力がますます強まった。その後、奴隷制に反対するという立場から、一部の元ホイッグ党（アメリカ）の議員らを取り込む形で共和党が成立し、同党は最初の大統領としてリンカンを輩出した。当初、民主党の支持基盤は南部のプランター層や西部の自営農民層であり、共和党の支持基盤は北部の農民、職人および製造業者などであったが、南北戦争の後^F、民主党は北部の移民や労働者層を支持者として取り込むなど、時代とともに同党の支持基盤は変化していった。共和党の方は、もともと資本家や大企業を擁護し、都市部の革新層を支持基盤としていたが、世界恐慌後^Gに約20年間にわたって民主党政権が続いている間にその支持基盤は民主党に奪われ、1960年代の黒人の公民権運動の高まりを経て、南部の保守層を大きな支持基盤とするようになった。現在、これらの2大政党は、民主党がリベラルで相対的に大きな政府を目指し、主に都市部やマイノリティを支持基盤とするようになっていっているのに対し、共和党^Hは保守で相対的に小さな政府を目指し、南部や中西部の白人たちを主な支持基盤とするようになっていっている。アメリカにおける2大政党制は、時代や社会の変化に応じて、支持基盤や対立軸、政党の基本的なスタンスをも変化させながら今日に至っている。

問A 下線部Aに関連して、17世紀後半のイギリス議会に関する説明として誤っているものはどれか。

1. トーリたちがジェームズ（のちのジェームズ2世）の王位継承を支持した。
2. ホイッグたちがジェームズ（のちのジェームズ2世）の王位継承を認めようとしなかった。
3. 審査法が廃止され、国教徒ではない者も公職に就くことができるようになった。
4. ホイッグたちは非国教徒への寛容を掲げていた。

問B 下線部Bに関連して、17世紀前半のヴァージニアなどで入植初期からタバコ栽培等の主要な労働力としてイギリスから送られたのはどれか。

1. 白人年季奉公人
2. 黒人奴隷
3. インディアン
4. クーリー

問C 下線部Cに関連して、反連邦派がジェファソンやマディソンを中心に作った政党はどれか。

1. デモクラティック＝リパブリカン党
2. ポピュリスト党
3. 自由土地党
4. 社会党

問D 下線部Dに関連して、制定時には内容として含まれておらず、1791年に修正条項を加える形で内容が加えられたものはどれか。

1. 人民主権
2. 連邦政府による条約の締結
3. 権利章典
4. 連邦政府による徴税

問E 下線部Eに関連して、ハミルトンに関する記述として誤っているものはどれか。

1. 『ザ・フェデラリスト』の執筆陣の1人だった。
2. 財務長官時代に連邦政府の財政を安定させるべく戦時公債のデフォルトを提案し、実行させた。
3. 財務長官時代に貨幣法の制定および貨幣の鑄造を主導した。
4. 独立戦争時にワシントンの副官だった。

問F 下線部Fに関連して、モンローが示したものに代表されるその後のアメリカの基本的な外交スタンスはどれか。

1. 帝国主義
2. 国際主義（介入主義）
3. 単独行動主義
4. 孤立主義

問G 下線部Gに関連して、同党の上院議員であったスティーブン＝ダグラスの主導によって成立した、新たな準州における奴隷制採用の可否を住民投票によって決めることとした法律はどれか。

1. 奴隷逃亡法
2. カンザス・ネブラスカ法
3. シャーマン反トラスト法
4. ホームステッド法

問H に入る最も適切な語句はどれか。

1. ホワイトハウスの開放
2. 成年男子普通選挙制度
3. スポイルズ＝システム
4. 大統領の拒否権

問I 下線部Iに関連して、南北戦争時に北軍の総司令官をつとめ、のちに大統領をつとめた人物はどれか。

1. グラント
2. トーマス
3. リー
4. シャーマン

問J 下線部Jに関連して、恐慌対策として、ニューディール政策の下で制定された法律として誤っているものはどれか。

1. 農業調整法
2. ワグナー法
3. 社会保障法
4. スムート＝ホーリー関税法

問K 下線部Kに関連して、近年、共和党のトランプ政権の下でアメリカが脱退した国際的な枠組み・会議・機関はどれか。

1. 環太平洋連携協定
2. アジア太平洋経済協力会議
3. 国際通貨基金
4. 世界貿易機関

問L 下線部Lに関連して、1980年代にそうした政府を目指したレーガン政権のもとで深刻化していった「双子の赤字」は何についての赤字であったか、ということに関する最も適切な組み合わせはどれか。

1. 金融収支・経常収支（貿易収支）
2. 資本移転等収支・金融収支
3. 財政収支・経常収支（貿易収支）
4. 財政収支・資本移転等収支

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 は、記述解答用紙の所定欄に適切な語句あるいは数字を記入せよ。下線部14については、この戦争後1878年に締結された二つの講和条約をあげ、締結の経緯と両条約がもたらした結果について100字以内で説明せよ。なお、句読点も1字と数える。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、欧米列強が領土拡大を進めた帝国主義の時代が訪れ、世界各地に大きな地政学的変化が起きた。1 年にフランス＝プロイセン戦争が勃発し、ドイツ帝国が誕生するとヨーロッパにおける勢力図が変化した。ドイツの台頭がイギリスやフランスなど既存の大国に対する脅威となり、各国は自国の勢力圏を拡大することで対抗した。背景には列強諸国に大きな経済力と競争力をもたらした第2次産業革命があった。第1次産業革命が軽工業や製鉄業の分野における変革であったのに対し、それは重化学工業を中心に電力と石油を動力源とする産業技術の革新から始まった。これを先導したのは、ジーメンス社や2 社が事業を拡大したドイツと、カーネギーやロックフェラーが財閥を築いたアメリカ合衆国であった。

新工業部門には巨額の資本が必要であり、3 と結びついた巨大企業による急速な工業化のため都市化が進み、都市労働者が増え、労働運動や社会主義運動が活発化した。1871年にはパリ・コミュンが樹立され、1889年には国際社会主義運動組織である4 が結成された。工業化により伝統的な生活基盤や環境を破壊された多くの人々は移民となって国を離れ、アメリカ合衆国への移民が急増した。

カルテル、トラスト、コンツェルンを形成した独占資本は、国家権力と結びついて帝国主義の原動力になった。ヨーロッパの各国は植民地拡大を進め、経済発展や国力の強化をめざした。圧倒的な経済力と海軍力を有して「5」を謳歌していたイギリスでは、財政を圧迫する植民地不要論も広がったが、1870年代以降の大不況と他の工業国との競合に直面すると帝国主義政策への転換がはかられた。ディズレーリ首相は6 財閥の協力を得てスエズ運河会社の株式を大量に取得して同社への影響力を強め、1877-78年のロシア＝トルコ戦争にも干渉してインドへの道を確保した。1899年、植民地相ジョセフ＝チェンバレンは7 戦争を起こして二つのブル人国家の領有権を獲得した。国内ではフェビアン協会などの社会主義的運動が活発化し、労働党が成立した。第3共和制にあったフランスは工業力では劣ったが、豊かな中産階級の資金力に支えられて1880年代から植民地拡大政策を進め、インドシナやアフリカに大植民地をつくりあげた。8 同盟(1894)や英仏協商(1904)を締結してドイツに対抗したが、国内では、ブーランジェ事件やドレフュス事件などの政体攻撃の動きが起きる一方、サンディカリズムがあらわれるなど社会主義勢力が伸張した。

ドイツ帝国のビスマルク首相は、文化闘争や社会主義者鎮圧法の制定により国家統合をはかった。保護貿易と第2次産業革命によりイギリスに匹敵する工業国に躍進したドイツは、国民の関心を外にそらし国内の安定を確保するためにも1880年代から植民地獲得に乗りだした。1888年に即位したヴィルヘルム2世は「9」と称された対外膨張政策をとった。ビスマルクを排した皇帝政府が社会主義に対してゆるやかな態度をとったこともあり、社会民主党が勢力をのばした。とりわけ社会主義思想が広がったのはロシアだった。他の列強諸国に比べて経済的に遅れをとったロシアでは、フランスからの資本導入によって1880年代に大工場生産が始まり、東アジア・中央アジアや10 方面への進出をはかった。しかし、多くが外国資本下にあった工場の労働条件は劣悪であり労働者のストライキが起き、農奴解放令後も農民がミールに縛られていた農村部でもナロードニキによる改革運動が広がり、1905年の血の日曜日事件、社会主義政権を樹立した11年のロシア革命につながっていく。

アメリカ合衆国は、19世紀末には産業国としてイギリスに並ぶようになり、発展の結果、移民の大量流入による都市の貧困問題やフロンティアの消滅などもあって、それまでの政策を変更して対外進出にとりかかった。マッキンリー大統領は12の独立運動に乗じて1898年にアメリカ＝スペイン戦争を起こして勝利し、カリブ海地域やフィリピンなどのスペイン領植民地を勢力下におさめた。続くセオドア＝ローズヴェルト大統領は中米諸国に対して「13外交」を行うとともに、パナマ運河を建設するなどして帝国主義外交を展開した。

[以下余白]